

# 危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響

## The Impact of Risk Aversion and Time Reference on Increased Unmarried Male and Male Late Marriages

西村教子 (公立鳥取環境大学)

NISHIMURA Noriko (Tottori University of Environmental Studies)  
nisimura@kankyo-u.ac.jp

本報告は危険回避の態度や時間選好が男性の晩婚化や未婚化に与える影響を検討し、現在や将来のリスクを回避する行動として、結婚を抑制または促進させているのか、または現在の自由さを優先して結婚を先延ばしにしているのかを危険回避度と時間割引率を用いて明らかにしていくことを目的としている。

日本の男性の未婚率は上昇を続けており、生涯未婚率は今後も上昇し続けると予想される。晩婚化や未婚化は、女性の経済的自立と男性の社会経済的地位の低下が原因とされている。そして、男性の社会経済的地位の低下は結婚を不利にすることで「結婚ができない」状況にするだけでなく、男性自身の結婚意欲を低下させ、「結婚をしない」という選択をさせている。自身の経済状況や不透明な社会経済環境の中、人生の中の大きな決断である結婚を選択しない人が増えている。しかし、結婚がさまざまなリスクに対するセーフティネットのひとつであると考えれば、むしろ結婚が「リスク回避行動」として促進されてもおかしくない。また、現在の気楽な独身生活は家族を持つ生活よりも好む傾向にあることから、時間選好の特徴のひとつである「現在志向」や「先延ばし」が晩婚化や未婚化を促進させているともいえる。そこで、本報告では、このような選択に危険回避の態度と時間割引率が与える影響に着目した。

関西大学ソシオネットワーク戦略機構が2014年と2015年に実施したインターネット調査「意思決定に関する意識調査」、「意思決定に関する調査2」の30歳代男性を対象に、推定した危険回避度と時間割引率を用いて結婚行動との関係について分析を行った。その結果、危険回避的な人ほど結婚確率が高まること、さらに非正規雇用や低所得グループは時間割引率が高いほど結婚確率が高くなり、中所得のグループでは低くなることが明らかになった。この結果から、結婚は将来への不安やリスクの軽減する装置であると考えられており、危険回避のため結婚意欲が高まることが推測される。また自身の経済状況によって時間割引率が結婚に及ぼす効果が異なることから、現在の生活の満足度の差異が結婚意欲に影響を与えると考えられる。